



令和3年(2021年)9月30日(木)
(公財) 広島平和文化センター
平和記念資料館学芸課 課長: 豆谷
電話: 241-4004 内線: 5804
担当: 本館常設展示 落葉
企画展示 土肥

平和記念資料館の展示資料入替等について

広島平和記念資料館は10月1日(金)の開館に伴い下記のとおり展示資料の入替及び更新をします。

記

名称	場所	内容
本館常設展示	広島平和記念資料館本館「絵筆に込めて」のコーナー (「市民が描いた原爆の絵」の原画の展示)	別紙1
企画展示	広島平和記念資料館東館1階 企画展示室	別紙2



広島平和記念資料館本館「市民が描いた原爆の絵」の原画の展示入替

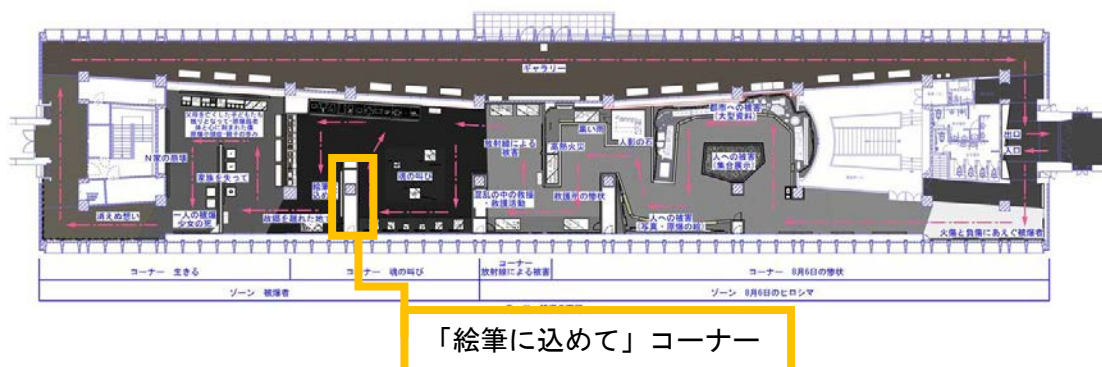
広島平和記念資料館本館常設展示「絵筆に込めて」のコーナーには、被爆者が当時の情景を思い出し描いた「市民が描いた原爆の絵」の原画を展示しています。この度、展示による絵の劣化を防ぎ、長期的に保存していくため、展示中の6点の絵を入れ替えます。絵の入れ替えは今年の2月以来4回目となります。

1 展示期間

令和3年(2021年)10月1日(金)～令和4年(2022年)2月14日(月)

2 展示場所

広島平和記念資料館本館常設展示「絵筆に込めて」コーナー



3 展示内容

家族や友人など、作者にとって身近な人物を描いた絵 6点 (別紙参照)

(参考)

市民が描いた原爆の絵の収集は1974年(昭和49年)、一人の被爆者が自らの体験を描いた絵をNHK広島放送局に持ち込んだことがきっかけとなって始まり、資料館は現在約5,000点の絵を所蔵しています。



NG436-09 松原美代子作 (被爆当時12歳/絵を描いた年齢69歳)
8月6日/爆心地から1,700m/金屋町
座り込み動けなくなった友人



GE01-42 吉岡満子作 (18歳/47歳)
9月1日~15日/2,400m/大芝町 大芝国民学校
ウジがわきハエが群がる弟の体 (右)



GE08-49 三浦静子作 (28歳/58歳)
8月6日午前10時過ぎ/3,400m/尾長町
ベトトリと血のりのついた妹の顔



NG406-02 佐藤泰子作 (17歳/74歳)
8月7日夕方/900m/新川場町 東保健所
白骨になっていた姉



GE03-27 上野馬左登作 (42歳/72歳)
8月6日/800m/三川町
友人K氏の最後の姿



GE05-39 川口シマ子作 (22歳/51歳)
8月7日/550m/木挽町
弟の同級生折出君



令和3年度第1回企画展「焼け跡もの語り」を開催します

今回の企画展は、原爆の後、広島焼け跡で見つかったものを手がかりに、これらのものが使われていた戦時下の暮らしをたどります。また、ものが溶ける原因となった熱線や火災のすさまじさを模型や映像、図表などを使ってわかりやすく展示します。さらに、生き残った人々が焼け跡で見つけ、亡くなった人の思い出とともに大切に保管してきたものを紹介します。

1 展示期間

令和3年(2021年)10月1日(金)～令和4年(2022年)2月13日(日)

※当初は9月17日(金)からの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館により10月1日(金)からの開催となります。

2 展示場所

広島平和記念資料館東館1階 企画展示室

3 コーナータイトルと展示内容

(1) 「もの」からたどる暮らし

被爆した化粧品の瓶、寿司屋の食器、酒器などを手がかりに、制約が多かった戦時下の暮らしを紹介します。

(2) たった一発の爆弾で一熱線と火災

原爆の熱線で表面が変化した瓦や花こう岩、原爆の実物大模型やものの温度を比較する図表などを展示し、ものが溶ける原因となった原爆の熱線や火災についてわかりやすく伝えます。

(3) がれきの街

米軍がカラーフィルムで撮影した焼け跡の写真を展示し、被爆後の虚無感を伝えます。

(4) 焼け跡で見つけた思い出

生き残った人たちが焼け跡で見つけた陶器・ガラス・金属類等思い出の品を展示し、家族を失った悲しみや何もかも失ったやるせなさを伝えます。

4 展示資料数

写真パネル、現物資料など約190点

5 入場料

無料

